

アンデレ便り

聖ミカエル大聖堂 (そのII)

質問者：これからの大聖堂には何が望まれているのでしょうか

主教：50年の節目の年に当たり、今、何が大聖堂にとって、最も必要なことなのだろうかを考えました。実は、建物のことです。

耐震改修工事の必要性 (注1)

法的に言えば、鉄筋コンクリートの定年は60年です。あと10年で耐用年数がきます。当然、新築を念頭に資金集めが必要となりますが、費用は8億から10億円と予想されます。教区の教勢や資産をみると、今、建築資金を集めることは非常に困難です。そこで、聖ミカエル教会信徒の同意を得まして、耐震改修工事を実施することが計画されております。天井の鉄筋を筋交い補強し、礼拝堂に防音装置を施し、反響をよくする。将来オルガン設置に備えてそのスペースの確保、納骨堂の増設などです。

改修工事を機に、特にチャンセル回りを、日本的なイメージ回復ができないか、検討しております。

洗練された礼拝の維持

礼拝の面ですが、洗練された礼拝を常に追求する姿勢が求められます。聖歌隊の充実、オルガニストの研鑽、聖歌の選定を豊かにし、アコライト・サーバーの人材確保、指導などを怠らず、ハイ・チャーチの伝統を受け継ぐ礼拝、それも日本人の信仰を色濃く反映する必要があります。これは現在、全聖公会にも共通した課題として提示されております。

地域社会、他教派との協働と人材の育成

今後引き続き、今日求まられている教育や社会福祉関係施設で重要な役割を担う人材を育てることです。教区から各学校・園に派遣されているチャプレンの働きを通して、大聖堂の存在をアピールしていただき、門戸が広く一般に開かれた大聖堂の礼拝に一般の人たちも参加して下さることが望まれます。聖公会関係諸施設の母教会としての役割の充実も必要です。

同時に、エキメニカルな活動、特に神戸YMCAや神戸バイブル・ハウスに積極的に関わり、他教派の人たちとの協働が切に求められております。

50年後、聖別100年をお祝いするとき、参考として、きっとこのDVDを教区主教や信徒の方々が見られると思います。この人たちは、私たちがどのように評価するのでしょうか。大聖堂創立から今日にいたるまで、相続されてきた遺産を食いつぶすことなく、それをますます増やしてくれた、と言われるような大聖堂の充実と発展を期待しております。

11代
4人 52047
695 304

注1—耐震改修工事実施について

今年11月23日開催の教区会に、常置委員会よりこれに関する議案が提出されます。提出に至る経過は次の通りです。

今年4月、聖ミカエル教会のご協力により、設計事務所に耐震診断を依頼、6月にその結果が提出されました。結論から言いますと、大聖堂天井鉄骨補強を実施すれば、耐震レベルをクリアできるとの診断でした。もう一つの問題はコンクリート支柱の中性化の進行状況でしたが、調査の結果、進行状況は普通で、現時点では危惧する必要はなく、実際に鉄筋が腐食し膨張現象を起こした時点で対応すればよいとのことですが、中性化を食い止める工事も可能であるとの診断でした。

結論として、神戸聖ミカエル大聖堂聖別50年を記念し、大聖堂耐震工事を実施して建物の延命をはかり、大聖堂における、より洗練された礼拝環境を整備するための改修工事を行う議案を提出するに至りました。同時に、大聖堂地下印刷室を改造し、納骨堂を増設いたします。工事費は聖ミカエル教会の納骨堂基金より拠出していただくことが決まっております。

工事概要は、鉄骨補強、外壁改修、屋根塗装、防音窓設置、フローリング、オルガン設置場所補強です。工事費は総計5,600万円で、管区建築融資金1,000万円を引いた4,600万円の耐震改修献金を広く教区内外にアピールする予定です。

工事は、来年7月に約2か月の工期で実施し、順調にいけば、2010年9月26日(日)に、聖ミカエル教会創立記念日に合わせて、耐震改修工事終了感謝礼拝を行うことになっております。

この工事実施により、大聖堂は40年以上耐用年数が延びることが期待されます。同時に、今から新大聖堂建築に向けて動き出す必要があります。50年という期間は、神さまからの猶予の時として与えられたものなのです。

私はチャンセルでダンスを踊った

9月23日、日本聖公会宣教150年をお祝いする礼拝には、海外から多くの主教がはせ参じ、盛大に行われました。カンタベリー大主教は、礼拝で最も印象的に残ったことについて、「日本聖公会は英国やアメリカ、カナダのミッションによって開始されたので当然、これらの国の代表者が多く出席すると想像していたが、期待はずれであった。アジアから大勢の主教が式に出席したことには驚いた。これは非常に喜ばしいことで、国としての日本は、常にアメリカのほうに顔を向けているように思えるが、日本聖公会に関して言えば、アジアの教会と密接な関係を結んでいることを理解した。」と述べられました。

9月27日の、神戸聖ミカエル大聖堂聖別50年の礼拝後の式典では、姫路顕栄教会と聖ミカエル広畑幼稚園関係者による、ユーモア溢れる劇を大いに楽しみました。これを会衆席から観劇していたUSPG総主事ドー主教も、劇に引っ張り出され「はないちもんめ」のダンスを踊らされました。実は、50年前の大聖堂聖別式にもSPG総主事が出席しておりました。50年前と今回の比較について、ドー主教は「まさか、50年前、総主事はチャンセルでダンスを踊っていなかっただろう」と述べておられました。